
叶わない恋。

すずな

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

叶わない恋。

【コード】

N9875C

【作者名】

すずな

【あらすじ】

先生と生徒。こんな関係なんて無理だと知りながらもだんだんと好きになっていくんだ...

第1話

嫌だったことが好きになる。

そんなことなんてないものだと思っていたのに。
まさか自分がそうなるとは思わなかったな。

先生を好きになるなんて……

1年の時は何もかわりなんてなくてただ名前を知っているという
くらいだった先生。

2年になって自分とかわりを持つようになり、そして……

夏休みがあげた9月のとある日。

「ここはこーでここはこう……」

黒板の左上からびっしりと並んだ玉田先生の字。

玉田先生の字ばかりが並んだ黒板を見て「大変そうだな」と先生を
気遣う美香。

試験問題の解答を黒板にびっしり書く玉田先生を尻目に、美香はひ
じについて寝る体制に入る。

クラスのみんなは赤ペンをカタカタと急がしそうに動かしているの
に美香は寝ようとしているのだ。

そうするのも無理はない。平均点30点の試験で美香は92点をと
っているからだ。

4点配点の問題をたった2つ間違えただけなのだから、暇になるの
も無理はない。

「それでここは……」

玉田先生の説明は美香にとってはただの「子守唄」でしかなかった。
眠りにつくにはいい声なのだ。

「美香、ちょっと起きて！ここ教えてよ」
隣の席に座る愛が美香の肩を大きく揺らす。

「んー．．．えっと．．．ここはこうで．．．」
玉田先生のチョークの音よりも小さい声で美香は丁寧に説明をしていく。

「ありがとう、美香」
美香は説明がうまいのか、愛が分かる子なのかは知らないがその問題はすぐに解けてしまった。

起こされた美香は寝に入ろうとしたが、授業もあと10分で終わるのだから起きていようと決め玉田先生の話を見まわす。

ふと玉田先生がこっちを見てくる．．．その目は美香に「助けて」といわんばかりの目をしている。

「はい、解答合わせ終わり。このクラスの最高点は92点」
もちろんその点数はほかでもなく美香の点数だ。

「俺の点数の3倍以上あるぞー。分けて欲しいなあ」
そんな声が飛び交う中、美香はまた玉田先生の顔を見る。

「はい、佐藤」

玉田先生から解答用紙を受け取る時に美香は毎回玉田先生の顔をじつくり見るのだ。

この教科の関しては、美香は毎回いい点数を取っているからだ。
玉田先生の顔を見て悪い点になったかというのを見分けているのだ。
今回の解答用紙をもらう時、玉田先生の顔はとてにやけていて表情だけだと「お前久々に悪い点数取ったな」と言っているような表情だった。

しかし解答用紙を見ると悪い点数ではなく、美香は玉田先生と顔をあわせてにっこりとするのがいつもすることだった。

そんな美香と玉田先生だけのやり取りを知っている人はほかにはい

ない。

いろいろな声が飛び交う中、美香は玉田先生のその嬉しそうな顔を見るのが好きなのだ。

美香は玉田先生が好きだからその教科を頑張っているのだ。

玉田先生が美香のことを何でもいい、少しだけでも考えてくれるというところが嬉しくて勉強を頑張っているのだ。

美香は毎回いい点数を取り、そして玉田先生とのちょっとした時間を共有するためにその教科は頑張っているのだ。

夏休みも目前の7月下旬。

美香は玉田先生に放課後呼ばれた。

「先生何々？美香何か悪いことしたっけ．．．？」

不安になるのも無理はない、玉田先生は生徒指導の先生なのだから。

「疑われるようなことをしたのか？まあそれより．．．これ、受けてみないか？」

そう言っただけしたのは検定の申し込み案内状。

「．．．これってかなり勉強しないと受からない検定じゃん？無理だよ．．．」

点数がいい美香が渋るのも無理はない。この検定は大人が受けても難しいとされる検定なのだから。

そしてその検定は、授業の中ではならっていないことばかりが出ていて、とてもじゃないが今の美香でも受かるような検定ではない。

「佐藤なら少し勉強すれば受かると思うんだよ．．．人数集めつてのが本音だけど」

少しシヨックだった。ただの人数確保のためだけに検定を受けるように勧めてきたから。

でも玉田先生が困っているんだし．．．検定までまだ2ヶ月以上も

ある。これなら受かるんじゃないのかな？

美香は軽い気持ちで引き受けた。とつても軽い気持ち。ただ先生を助けるためという。

それから後のこの気持ちなんて芽生えると思うこともなく……

「検定受ける奴は合宿強制参加なー」

こんな言葉を聞いたのは、検定を受けると答えた数日後のことだった。

この話をなぜ後になって知ったのか……それは、合宿参加者の人数確保のためだったのだ。

検定を受ける人数確保ではなく、合宿参加のための人数確保だったのだ。

「合宿代は5000円。んじゃー当日持ってこいなー」

詳しい説明もないままただ突きつけられた「検定勉強のための合宿」

美香はいやおうなくこの合宿に参加させられることとなった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9875c/>

叶わない恋。

2010年12月14日17時36分発行